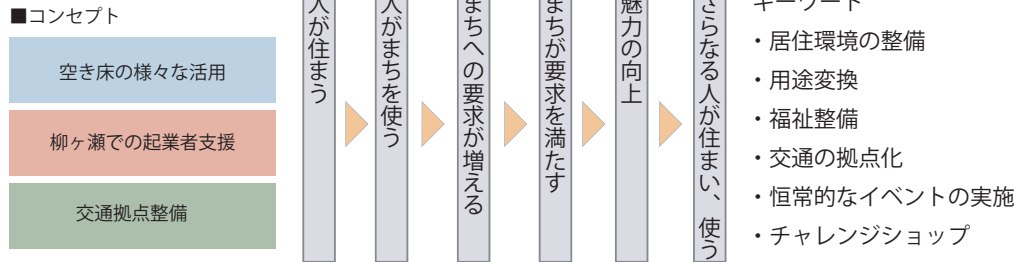


生活するまち 柳ヶ瀬

人の生活の「系」が失われたまちは再び人の生活によって取り戻される必要がある。
このキーワードになるのは「住まう」というごくあたりまえの行為である。
この「住まう」ということを取り戻し、まちの「系」の回復をめざす。



柳ヶ瀬の現状と今後

■柳ヶ瀬が患った病

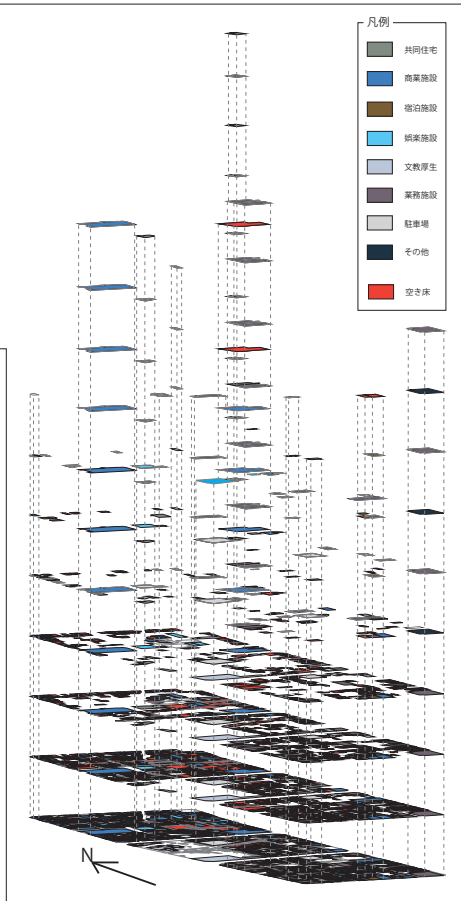
戦後の岐阜市中心市街は、岐阜駅前の繊維問屋街を核として形成された。柳ヶ瀬地区は、就業地の集中する岐阜駅前エリアと市役所周辺エリアの中間に位置し、娯楽のまちとして賑わいを呈していたが、繊維産業の海外流出、成長経済下における都市機能の郊外流出によって、かつての賑わいの基盤を失った。
その結果、現在はかつての面影をまちなみに残しつつも、柳ヶ瀬を行き交っていた人々の系は多くが失われ、現在は機能の空洞化と生活者の減少・高齢化が顕著である。特に、夜間における賑わいはほとんど見られなくなった。

■処方箋の検討

まちは、人がそこに住まい、使いづけることによってその系を維持・発展させている。ならば、失われたその系を再び取り戻すためには、再び人が住まうことからやり直す以外には方法はないと考えられる。
そこで、現在空隙となっている過去の賑わいの痕跡(空床、人のいない通り)に積極的に人の生活を挿入し、常に人がそこにいる環境をつくり出すことが望ましい。

■健康管理の方法

仮に症状が緩和(一時的な来街者の増加)しても、健康管理を怠るとまた体調を崩してしまう。それを予防するためには日頃からの規則正しい生活(引き続きの居住環境整備と新規参入者の受け入れ)と適度な運動による新陳代謝(恒常的なイベントの開催)が必要である。



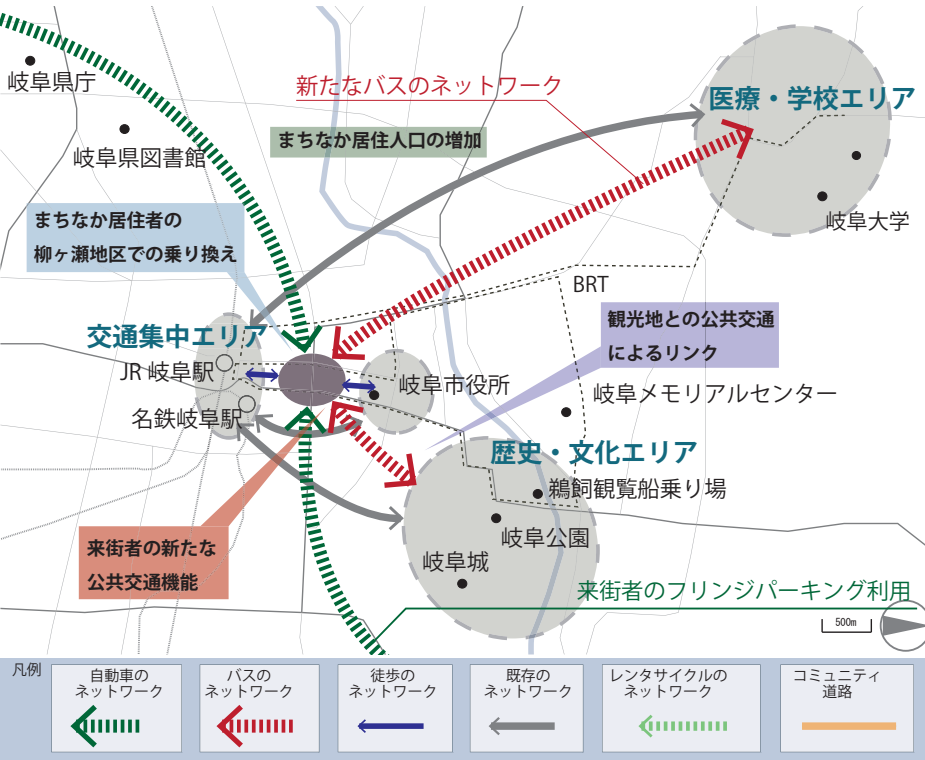
整備方針

現状

岐阜駅と岐阜市役所の間に位置する柳ヶ瀬地区は地域としての魅力が少なく、人口が少ない。交通も国道248号線・256号線の通過点であり、柳ヶ瀬は空洞化した地域となってしまっている。

提案

柳ヶ瀬地区周辺にまちなか居住者を集積させることで、公共交通利用者を増やす。利用者の増加に伴いこの場所を新たな拠点として整備することで、柳ヶ瀬へ立ち寄る機会を増やす。公共交通機能の充実にはさらなる利用を生み、最終的には岐阜駅に次ぐ第二の公共交通拠点を目標とする。



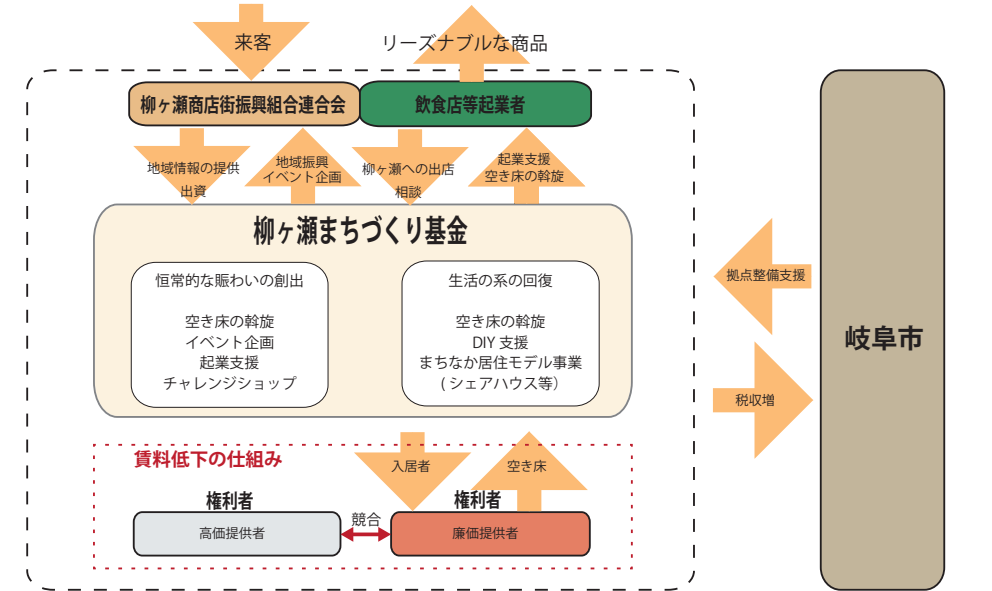
現状

現状では、交通拠点施設にバスが止まらない、駅前のみまちなか居住推進地区に駐車場が点在しているという問題点が存在する。

提案

レンタサイクルステーション、バスターミナル、フリンジパーキングを交通拠点地区に新たに設置し、周囲の交通拠点とする。駅前地区から柳ヶ瀬地区までを2本のコミュニティ道路を整備することで、3つの地区を繋ぐ軸とする。

マネジメント・フロー



■柳ヶ瀬まちづくり基金

まちづくり基金は権利者と起業家を仲介してできる限り安価に床を提供し、同時に、起業家を役割も担う。店舗利用に対しては、露店設備の貸し出しやDIY改修支援などでインシャルコストを、情報発信やイベントなど一体で行ったほうが効用の大きい事業を行いランニングコスト削減を援助する。

■起業家のメリット

起業家は基金を介することで、屋台や共同店舗から次第に大きな店舗へステップアップしていく「チャレンジショップ」制度等、起業リスクを減らす支援を受けることができる。それは起業家の商品の低価格化にもつながり、結果として地域に集客力をもたらすことにもなる。

■権利者のメリット

市場は床の供給過多であるが、依然として賃料の決定は権利者側にあり、実態よりも高く設定される傾向にある。そこで、まちづくり基金がより廉価な床を優先的に斡旋していくことで、権利者サイドに市場の原理を発生させ、賃料を下げる。しかし、空き床のままにしておくよりも低賃料で利用率を上げる方が、結果的には権利者のメリットにもつながる。

	柳ヶ瀬まちづくり基金		行政		通りの使われ方	
	商	住	ハード	ソフト	営業時間(1日)	空間
現在					3 6 9 12 15 18 21 24 3時	限定的
初期	屋外イベント(昼)	モデル事業(シェアハウス整備)	センサ1の改修支援	介護福祉 専門学校誘致 地域支援センター	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	イベント
中期	屋外チャレンジショップ(路上・軒先) 定期イベント	シェアハウスオーナーの新規募集・支援	駐車場の集約	交通対策	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	チャレンジショップ
長期	屋内チャレンジショップ(共同店舗) 空き床の斡旋・改修支援	カーシェアリング	住宅整備 旧長崎屋の改修支援	特別介護老人施設誘致	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	チャレンジショップ
成熟期	空き床の斡旋・改修支援 高機能の連続 恒常的な賑わい	老朽建物の建て替え支援 まちなか住宅市場の活性化	バスターミナル整備 歩行者環境整備 平面駐車場の住宅利用推進	広域交流の活性化 グループホーム誘致	3 6 9 12 15 18 21 24 3時	店舗

■住・商の相互発展

まちづくり基金は住と商において事業を行う。初期にシェアハウスやイベントで通りに人を呼び込む。中期ではシェアハウスの拡大や夜間の屋外チャレンジショップを行うことで、常に通りに人がいる状態を生み出す。長期では一般住居の展開や屋内チャレンジショップの出店により、様々な人・産業の重層化をはかる。成熟期では人や産業の重層化が進み、通りに商店の連続性が生まれる。商と住が一体となり段階的に発展することで、地域としての魅力が増加し、活気あるまちとなる。

■柳ヶ瀬の拠点化

行政は、本地域の核となる施設・政策を行う。まちづくり基金では行えない本地域の拠点化を公共福祉の一貫として行う。ハードに関しては、現在分散して存在する駐車場を集約しフリンジパーキング化する。その後、歩行者や自転車支援を行う。ソフトに関しては、専門学校や介護施設の誘致、ICカードの共通化を行う。専門学校は福祉施設と共同で地域とその周辺部の高齢者支援を行う。

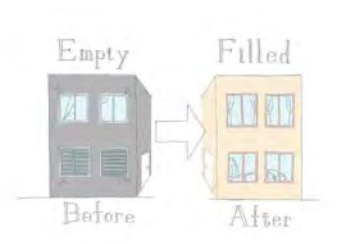
■通りの時間・空間利用

現在、既存店舗は夜間の営業が少なく人が寄り付きにくい。そこで、屋外イベントやシェアハウスにより通りに一定の利用を確保したうえで夜間のチャレンジショップを行い通りの利用価値を向上させる。さらに屋内チャレンジショップ、一般店舗と段階的に増やしていく。様々な人・産業が重層化し、通りの時間・空間的な多様性が生まれる。また、商業は重層化によるインキュベータによって入れ替わりが行われ新鮮な通りが維持される。

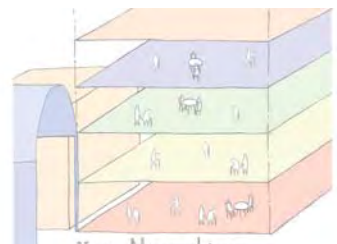
整備の概要



シェアハウス
既存店舗を改修して若い世代が用いるシェアハウスをつくる



空き床の住宅転用
空き家・空地に住宅機能を整備し、居住者を増やす



大型空き店舗の用途変換
長崎屋・旧センサを福祉施設に用途変換する



通りの継続利用
チャレンジショップなどの補助をすることで、夜間でも利用率を保つ



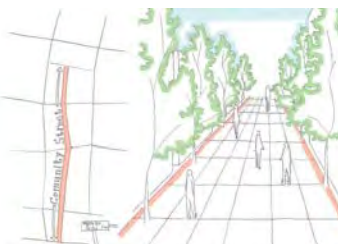
交通の拠点化
フリンジパーキングなどの機能を整備し、人を引き込む



軒先の美化推進
コンテストなどのイベントにより軒先の美化を推進する



アーケードの撤去・整備
まちの美観を損ねている一部のアーケードを撤去する



コミュニティ道路の整備
歩行者の主要動線となるコミュニティ道路の景観整備